

提案名	「匠の極」～九州・山口匠の会 長期優良住宅先導事業～	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	九州・山口匠の会	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

九州・山口匠の会は、気候風土・生活習慣・木材流通面において同一とみなされる地域の中で活動する優良工務店が平成7年に朝日新聞西部本社広告部の後援のもと、伝統的な家づくりに新しい技術を加え、自然素材の良さを生かした「健康創造住宅」の普及を達成するために発足しました。

今回の提案では長期優良住宅先導事業の「いいものをつくって、きちんと手入れして、長く大切に使う」という本来の趣旨を、九州・山口匠の会では「地球環境に優しく、愛着を持って大切に、安心して住み続けられる家」と定義付け、ネットワークを活かし工務店ならびに賛助会員が連携して住まい手に長期的な住み方のアドバイスを提供し続ける体制を構築することだと考えます。

そのために九州・山口匠の会として現状構築しているネットワークをさらに充実させ「心地いい家」ネットワークを整えます。このネットワークでは住まい手を中心に多角的なサポートを工務店ならびに賛助会員が行い、各工務店のレベルの均一化を図るための勉強会を匠の会で行います。



また環境問題についても積極的に取り組んでいかなければいけないと考えています。九州・山口匠の会では省CO2に取り組むために植林活動・CO2を一切出さない乾燥技術の開発、また運送時のCO2の削減のために地元の木材を使用する事に取り組んでいます。

その木材も森林認証を受けている山から切り出す事で環境負荷を抑え、持続可能な供給を受ける事ができ、木材の品種も限定することで均一化した性能をもった材料を使う事ができます。

それに付け加え住宅の基本性能は災害から人を守る事だと考えます。この地域は台風の通り道にもなっていますので風水害についての予防と対策をし、その後の復旧活動についても匠の会でのネットワークを最大限に利用していく事を考えています。

■提案内容

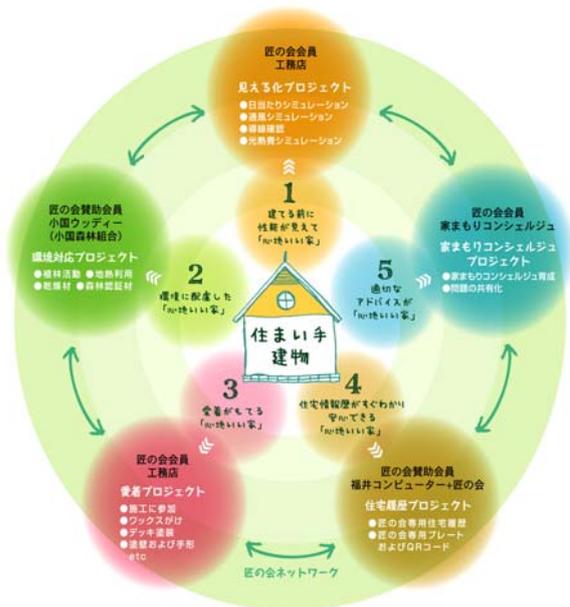
1 住まいサポート～「こちいい家」計画～

長期優良住宅の「良い建物を長く大切に使い続ける」には住まい手を中心となり、建てる前に建物の性能を知り、愛着を持ち、積極的に手入れを行いかつ、不明確なこと・専門的なことについては専門知識を持ったスタッフが的確にアドバイス並びにアフターフォローを行うことが大切だと考えます。

そこで匠の会は以下のような「心地いい家」を提案します。

- A 建てる前に性能が見える「心地いい家」
- B 環境に配慮した「心地いい家」
- C 愛着が持てる「心地いい家」
- D 住宅履歴がすぐわかり安心できる「心地いい家」
- E 適切なアドバイスが受けられる「心地いい家」

以上の5つの項目について匠の会の工務店ならびに賛助会員で住まい手をフォローし、かつその知識の均一化並びに人材育成を匠の会事務局が行うようにします。また匠の会事務局では会員のメンバーが廃業等した際にはその地域の他のメンバーを募り、住まい手に今後のアフターフォローの業者を紹介します。



2. 乾燥時にCO2を出さない地熱（温泉の水蒸気熱）を利用した乾燥木材の採用

日本は火山国で数多くの温泉地が各所にあります。

ここ九州・山口地域にも有名な温泉地が数多くあり、その温泉のエネルギーを有効活用しようと考えました。岳の湯地域では以前から温泉の水蒸気を利用して、蒸し物・暖房・洗濯を行ってきました。今回はその温泉から出る水蒸気を利用して、木材乾燥をおこないます。この地熱を利用した乾燥技術はCO2を一切出さない環境にとっても優しい木材乾燥技術です。



3. 材料品質の安定を図るために構造材の品種を限定します

杉といっても品種は多く、その種類ごとに特徴が違います。

そのため均一な品質・強度を保つことが難しいとされています。

(含水率・生育の違い・色合いの違い・強度のばらつき等があります。)

そこで構造材に使用する杉の品種を限定しその材の特徴を把握したうえで使用します。



4. 災害に強い家

最近の異常気象により突然の集中豪雨や台風の巨大化・竜巻の発生が報告されています。ここ九州・山口地域は台風の通り道であること、集中豪雨が頻繁に起こる事を考え、その予防と対策を講じます。またライフラインが寸断された時にも一定の機能が持続できる住宅とします。

<対策> ①災害の予防対策

②自然災害によってライフラインが切断された時の一時的回避対策を行う。

③各社の緊急連絡網整備を行い、最終報告を匠の会に報告する。

④局地的な被害が起きた場合匠の会のメンバーによる専門職の紹介を行う。

■提案者からのコメント

この提案内容は住まい手を中心に考え、どのようなサポート体制が確立できるかを考えました。その一つを「ここちいい家」計画として発足し取り組んでいきます。また匠の会として環境問題にも積極的に今後取り組むための組織作りとしています。そしてその活動について、後援者でもある朝日新聞西部本社広告部にバックアップしていただき普及活動に努めていきたいと考えています。